令和３年度第１回子ども・子育て会議　会議録

令和３年度　第１回鹿屋市子ども・子育て会議　会議録（要点筆記）

開催日時	令和３年６月４日（金）	
開催方法	書面協議	
委員出欠	出席委員 27 名	朝野委員、エルメス委員、鮫島委員、立切委員、鶴田委員、山口（翔）委員、山口（な）委員、米重委員、寶滿委員、西之原委員、森委員、堂園委員、宮脇委員、副田委員、藤井委員、軀川委員、宮下委員、久野委員、新川委員、有川委員、清水委員、柳田委員、兒島委員、川﨑委員、渡邉委員、末吉委員、吉永委員

１　協議内容

令和４年度教育・保育施設の認定こども園への移行について

２　回答状況

(1) 委員数　27 人

(2) 回答数　26 人

３　審議結果

有効回答数　26 人

「承認します。」と回答した委員数　　26 人

「承認しません。」と回答した委員数　　0 人

４　その他意見

（委員）

コロナ禍の中、鹿屋市内の小・中学校でも感染者が出てしまっています。今、市内の学校で感染者が出た場合、学校ではどのような対応がされているのでしょうか。例えば、これまで見つかった学校を参考に「〇〇（小中保育園）で児童または教員に感染者が出た場合の対応」･･･といった具体的な対応マニュアルを、各学校を通して保護者にも配ってもらえると、保護者としてもしもの場合に備えた準備、心構えが出来るので良いのではと思います。事前に学校の対応が分かるだけでも保護者は安心もできると思うのですが。

また、これまで子ども同士の中で感染が広がっていないのが幸いに思うのですが、子ども達のコミュニティは学校、家庭だけではありません。学童やスポーツクラブ、学習塾などもあります。例えば、子どもの感染者が出た場合、こうした機関等にもおおまかな情報がいくようにして、各機関が対応出来るような仕組み作りは出来ないでしょうか。

（委員）

特に小学校でのグレーゾーンの子どもたちが年々増えてきているように思います。普通クラスと特別支援クラスどちらを選べばいいのか悩み続ける親御さん、普

通クラスでのトラブル、親が認めないために普通クラスで問題ばかり起こり、一人で対応しなければいけない先生方。皆助けを求めています。コロナの中で行事等も減り見直されている中、いいチャンスだと思います。子育て支援課、教育委員会でこの問題に取り組んでいただけたらありがたいです。（特に親御さんは相談する場がなく苦しんでいるようです。）

（委員）
　子ども医療費助成の年齢の上限が上がり、とても助かります。アレルギーや発達障害など持病のある親御さんは経済的にも助かると思います。

（委員）
　子育て交流プラザ、設備はもちろんですが、スタッフの方の対応が非常に良く足を運ぶたびに元気を頂いています。２～３回の利用でも子どもの名前を覚えて下さる、換気の際もドアの近くに立って子どもから目を離さない等、子育てしている一利用者としても細やかな気配りがとても嬉しいです。コロナ禍収束後、もっとたくさんの方々に利用される場所になればと思っています。

（委員）
　小学生の子どもに放課後児童クラブを利用しています。我が家は途中で児童クラブを変更したのですが、利用料金が施設により本当に違うのだなと後になり知りました。（1 回の利用、1 か月の利用、1 か月上限の有無など）共働き家庭は今の時代では当たり前なので同じ地域内で利用料金の差が大きくならないよう、働く親たちが公平に施設を利用できるようになったらいいなと切に思います。

（委員）
　要保護児童の把握をどのように行い、支援方法を取っているのか知りたい。要対協にあげられない家庭への支援、協力機関との連携強化を図るための取り組みを具体的に知りたい。民間と行政との連援強化を図りたい。

（委員）
　子育て支援課―健康増進課―児相―児家セン―教育委員会の風通しの良い連携を強化していってください。

（委員）
　コロナ禍がまだまだ続く中、一層きめ細かな子ども・子育て支援の施策実施を要望します。学童保育も含め。

（委員）
　子育て支援施設の「ひよこ、ふれあい、ひまわり、バンビ」の開館が月・水・金なので、半分は火・木の開館日を設けてはどうでしょうか。

（委員）
　子どもは国の宝。どんな環境の中で生まれようと皆平等である。全ての子どもがこの幼児期に集団の中で保育･教育を受けることは､人間形成上極めて大切である。今後は、①認定こども園への移行を更に支援し、待機児童を減らすこと②子育てに必要な環境の整備や拡充を図ること③今まで以上に若者世代に子育てにかかわる

情報発信に努めること、これらはリンクしているので、それぞれの課題を解決する手立てを考えること、そして待機児童０を目指して頑張ってください。